



University of the Ryukyus

皆様の発表を受けて

神谷 大介

琉球大学 工学部 工学科 社会基盤デザインコース

琉球大学 島嶼防災研究センター(併任)

琉球大学 工学部附属地域創生研究センター 社会システム研究部門長(併任)

関西大学社会空間情報科学研究センター 客員研究員

d-kamiya@tec.u-ryukyu.ac.jp

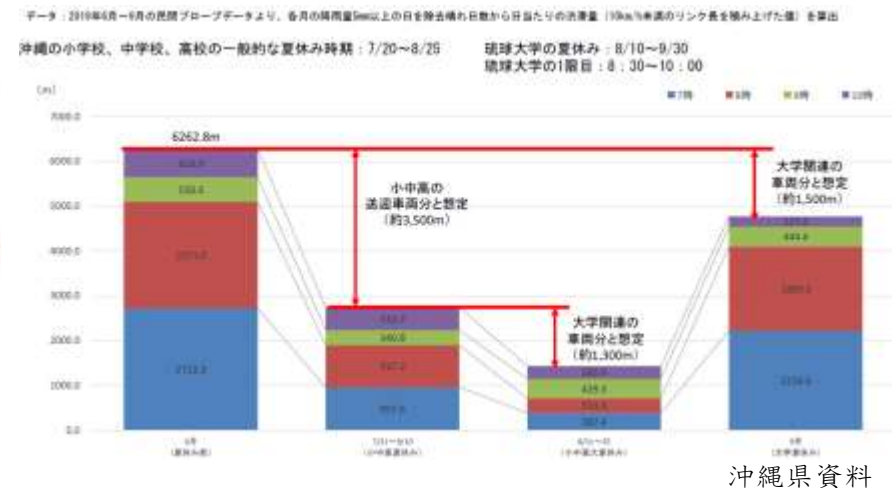
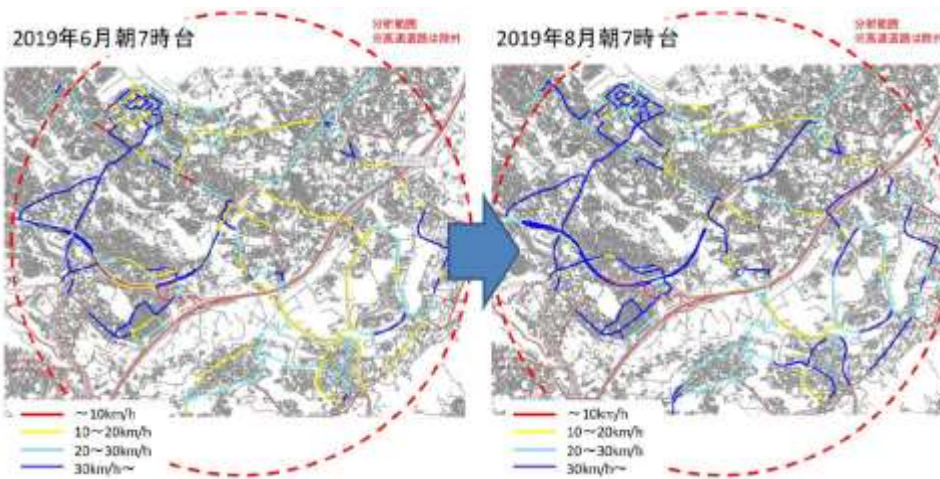


●星部長を受けて

- 運輸部門からの温室効果ガス排出量
- 大学も同じ 95%の学生が自家用車通学

大学の課題認識

● 琉球大学交通環境の在り方WT：渋滞・事故・千原キャンパス施設維持管理費

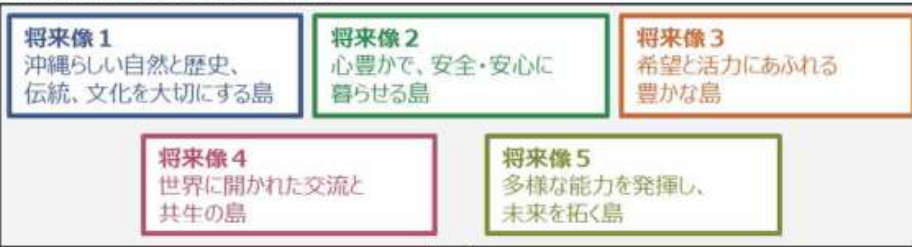


- 医学部・病院の西普天間移転・県道81号渋滞
- カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション：SDGs
- L型大学：地域連携・貢献
- 次期振興計画・SDGs

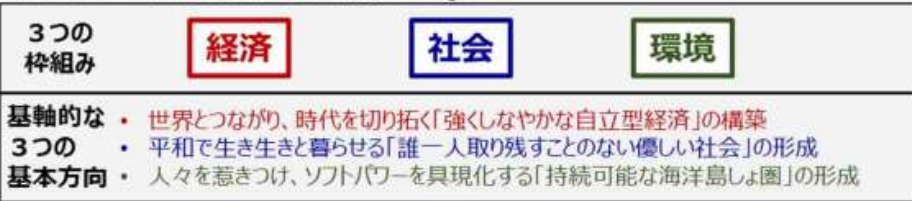


背景（沖縄県の課題認識と施策）

沖縄21世紀ビジョンの将来像



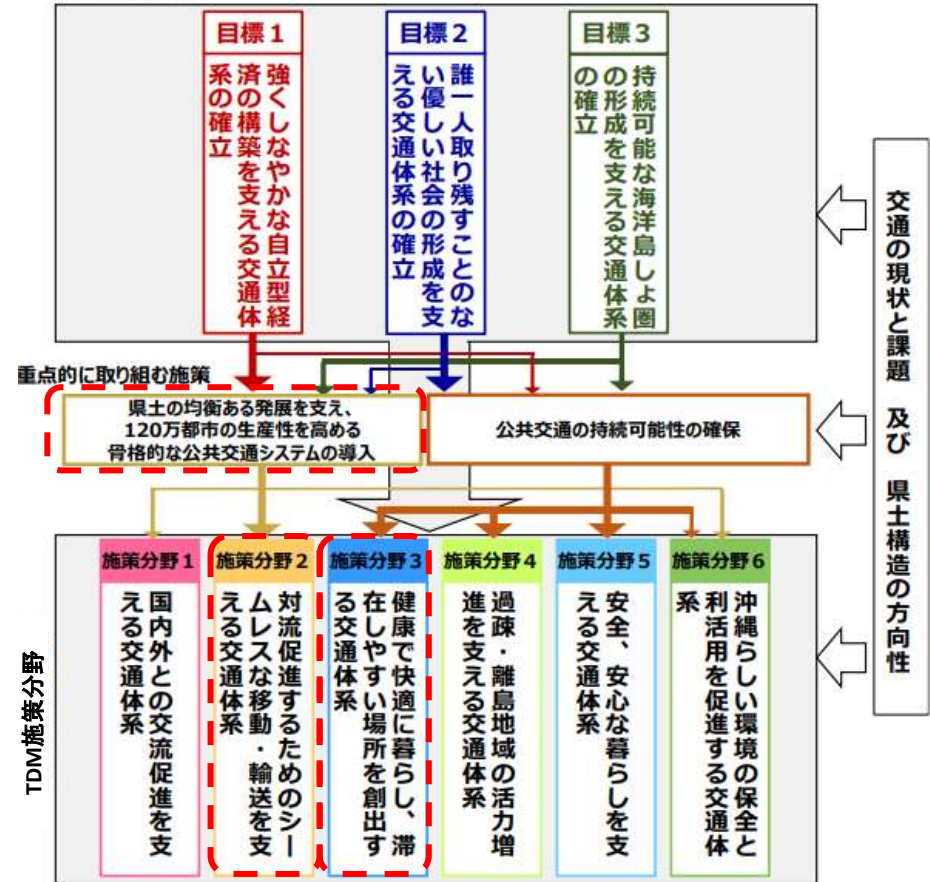
新・沖縄21世紀ビジョン基本計画



総合交通体系基本計画の目標



総合交通体系基本計画の目標



SMART?

出典：沖縄県総合交通体系基本計画・TDMアクションプログラム

●星部長を受けて

- 運輸部門からの温室効果ガス排出量
- 大学も同じ 95%の学生が自家用車通学

●労働生産性

- 全国の所得に対して1975年からずっと70～75%
- 1人あたり観光消費額1978年約7.4万円⇒2019年7.4万円

	R1検討で設定した時間価値(円/分)	
	選好接近法 (需要予測モデルにより算出)	所得接近法 (平成30年毎月勤労統計に 基づき算出)
通勤	17.0	28.2
業務	17.2	
通学	13.7	同左
私事	23.8	同左

所得接近法の 算定資料	現金給与総額 (円)	総実労働時間 (時間)	時間価値 (円/分)
全 国	323,547	142.2	37.9
東 京	413,275	141.1	48.8
愛 知	344,848	144.0	39.9
大 阪	339,081	139.3	40.6
福 岡	302,818	142.3	35.5
沖 縄	244,775	144.7	28.2
沖縄・構想段階(H26)	236,220	148.0	26.6

平成30年毎月勤労統計に基づき算出

【参考】首都圏の時間価値

参考	首都圏(円/分)	
	選好接近法による 時間価値	所得ベースでの 時間価値
通勤	42.6	43.4
業務	43.2	
通学	19.3	
私事	25.0	

選好接近法:「鉄道需要分析手法に関するテクニカルレポート」
(H28.7、交通政策審議会陸上交通分科会鉄道部会)
所得ベース:平成30年毎月勤労統計に基づき算出





勉強会資料

● システム思考・試行

□ (公共) 交通計画の前に，社会計画

□ なりたい社会（共有），必要な移動，何を公共交通で？

● 交通：派生需要 であるならば

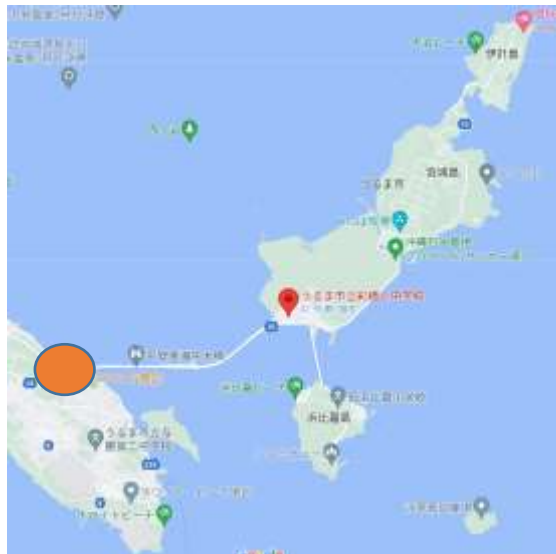
□ 通院：医療サービスへのアクセス（遠隔医療・医師派遣）

□ 購買：宅配サービスで対応 だけ？

□ 離島架橋による孤立化



交通・まちづくり・仕事



- 病院
- 図書館
- 商業施設
- 飲食 etc.



雇用<=観光・交通PF/事業協同組合



離島公共交通の維持

喜界島



Amami Air Co., Ltd

株式会社 奄美航空



奄美航空ツーリスト



喜界第一ホテル

KIKAIDAIICHI HOTEL



ゲストハウス

ココネドコ喜界島

coco né doco



西表島



仲間川マングロープクルーズ



やまねこレンタカー



路線バス



ガソリンスタンド



スーパー



土産物店スーパー



整備工場



両先生のご講演より

- VISION（セクターまたぎ）SMART
- 富山県知事は「富山のSUMP化」を目指す
- 沖縄県知事は・・・市町村長は・・・
- Qサポ RYUサポ？・・・
- 社会システム研究部門





琉球大学工学部附属
地域創生研究センター
Research Center for Regional Development and Creation

センターについて

研究プロジェクト

技術相談・
共同・受託研究

TOP 研究プロジェクト 社会システム研究部門

センターについて

社会システム研究部門



第6回琉球大学社会システム研究講演会
第66回土木計画学研究発表会

沖縄復帰50年スペシャルセッション

日時 2022年11月12日（土） 13:15～16:30

場所 琉球大学文系講義棟2F 215室

開会の言葉

島袋善明（土木学会西部支部沖縄分会会長・沖縄県土木建築部長）

「沖縄開発への期待」

講師：森地茂（政策研究大学院大学客員教授・名誉教授、東京大学名誉教授、
東京工業大学名誉教授）

「基地跡地利用と沖縄振興」

講師：岸井隆幸（計量計画研究所代表理事）

「子どもの未来を開く沖縄」

講師：久保田尚（埼玉大学教授）

「バスを活かした沖縄の未来への期待」

講師：中村文彦（東京大学大学院特任教授）

「沖縄の歴史と地域づくり」

講師：羽藤英二（東京大学大学院教授）

閉会の言葉

品中秀人（土木学会西部支部沖縄分会副会長・沖縄総合事務局次長）



高校生の通学実態

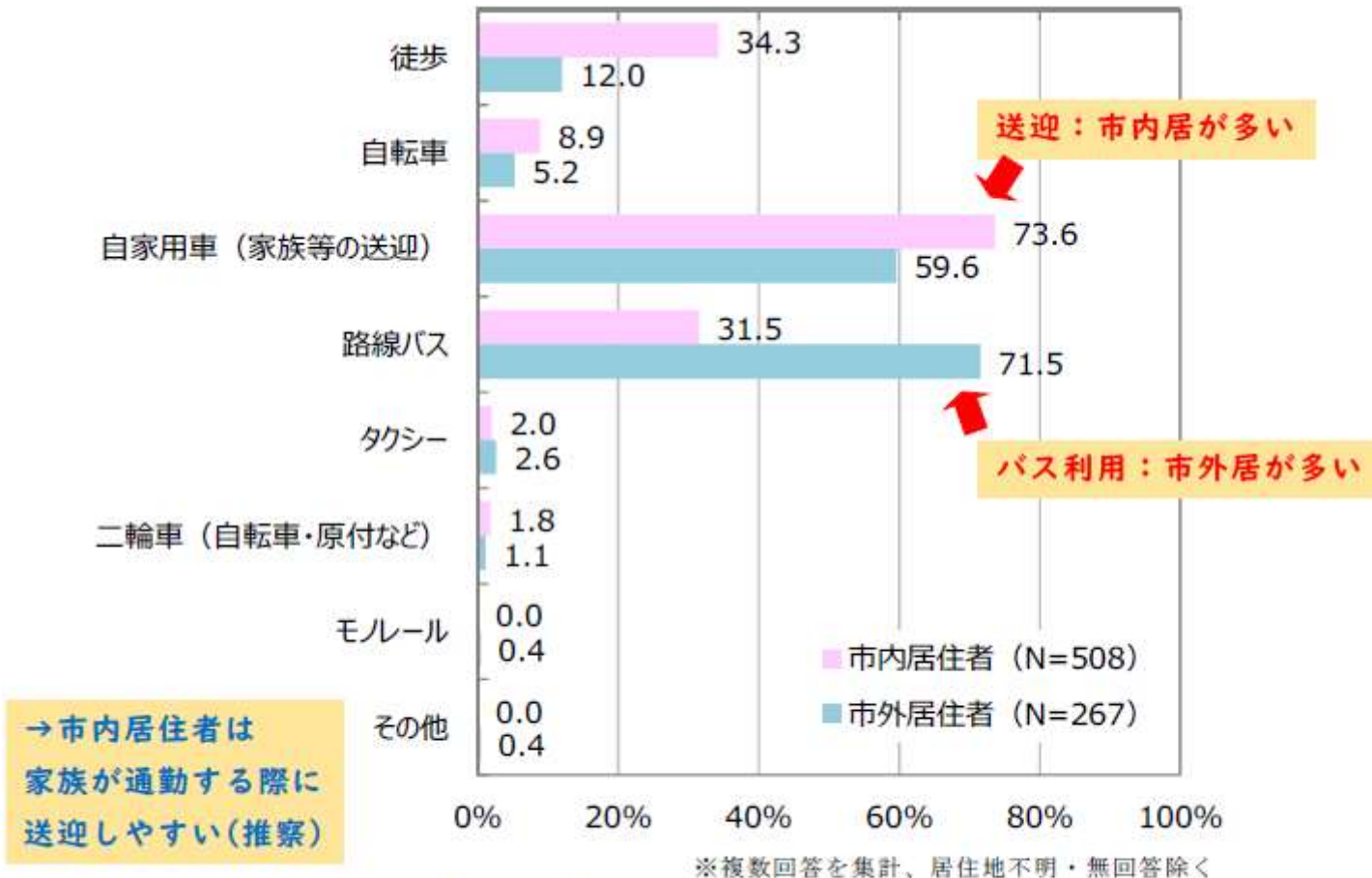
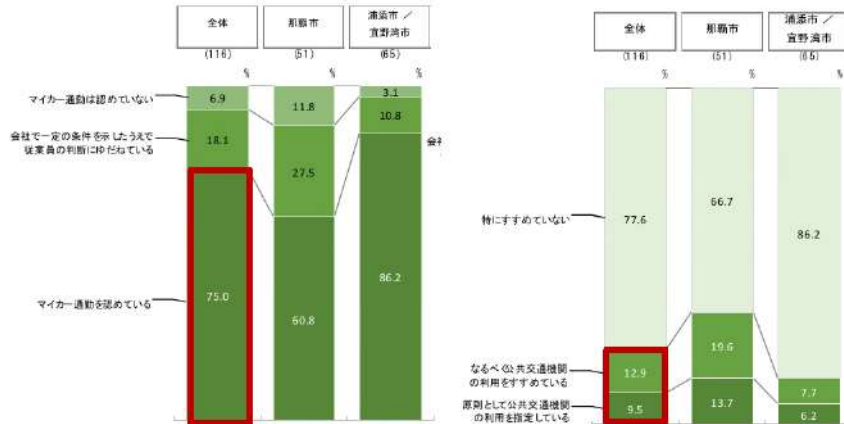


図 通学時の交通手段 (居住地別)

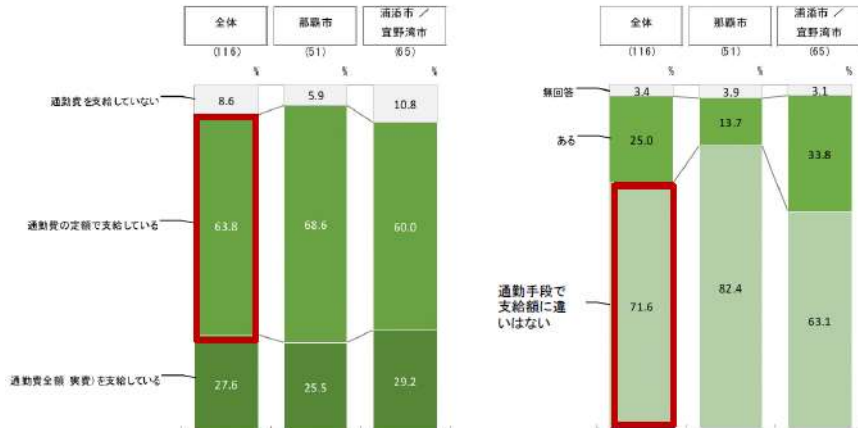


通勤

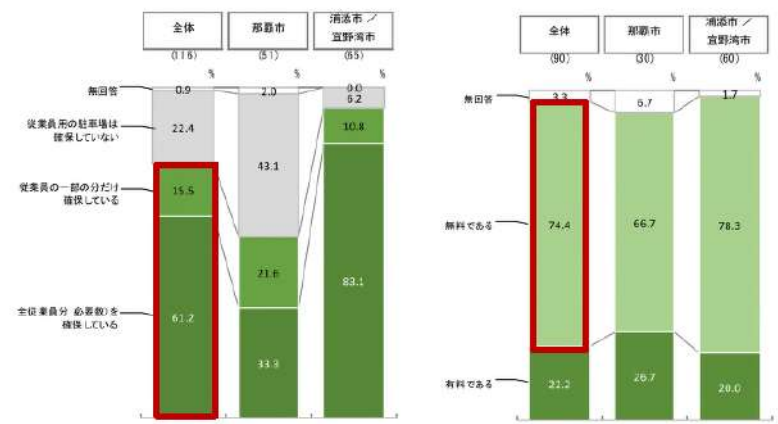
- ・マイカー通勤は、企業の7割以上が認めている
- ・公共交通の利用推進をしている企業は、2割強にとどまっている



- ・通勤費は、定額支給している企業が6割強、全額支給は3割弱
- ・通勤手段によって支給額に違いがない企業は、約7割



- ・従業員の駐車場を確保している企業は、8割弱にのぼる
- ・7割以上は駐車場代が無料



- ・車通勤が望ましい理由は、“従業員の事情”とする回答が約6割
- ・通勤手段の考え方は、従業員の意見による影響が大きい

<車通勤が望ましい理由>



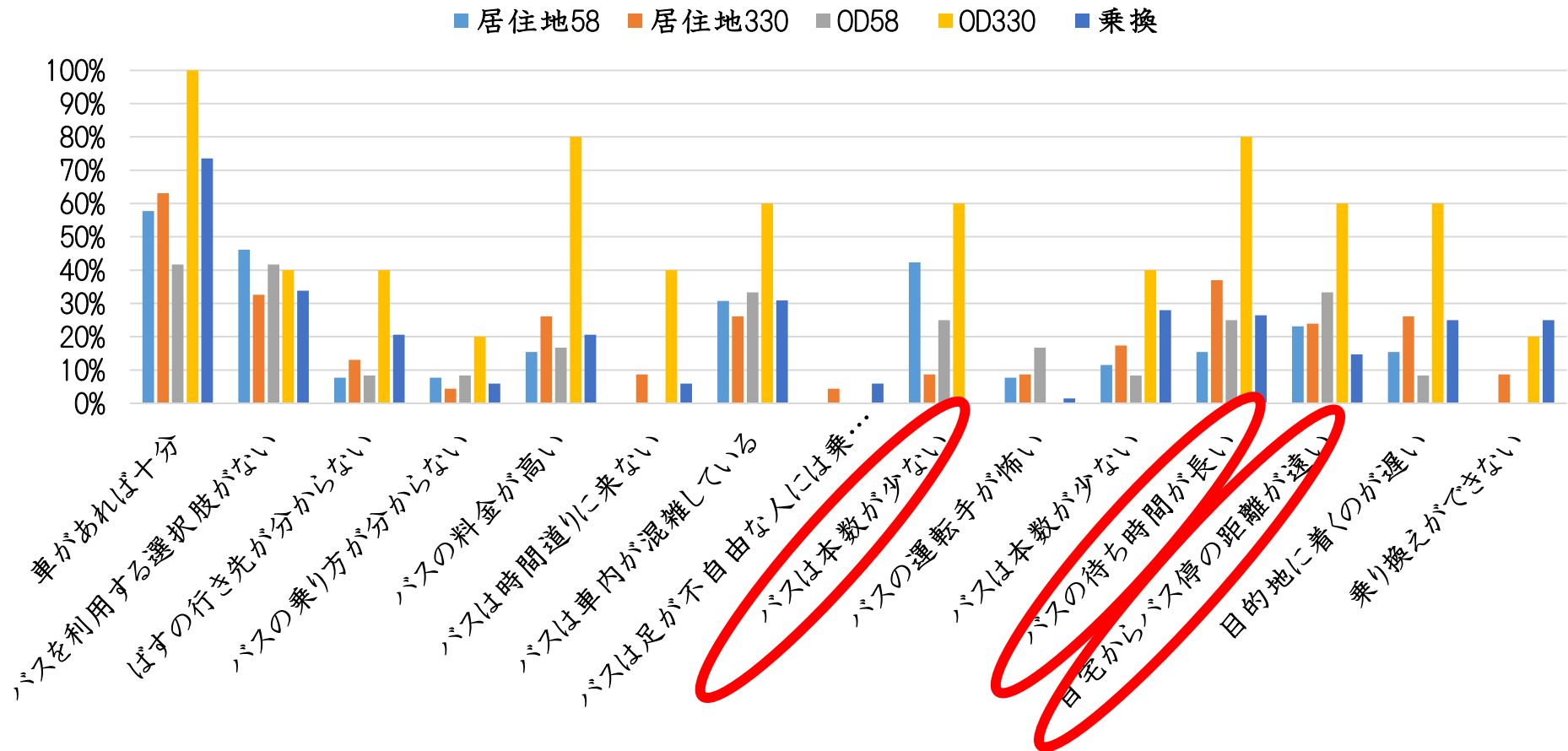
<通勤手段の考え方で影響するもの>



出典：国道 58 号（「基幹バス構想」における主要幹線区間）を通勤ルートとする民間企業等従業員の通勤手段等に関する調査検討業務（平成 28 年 3 月）、運輸部
 国道 58 号線沿線（概ね 300m 以内：主に従業員が国道 58 号線経由で通勤する）の従業員数 20 名以上の事業所対象（郵送数 557 社 回収率 20.8%）



バスに乗らない理由



朝7時～9時における那覇向けバスの本数
国道58号浦添市区間56本
国道330号浦添市区間33本

データ: 沖縄県公共交通活性化協議会



発表を伺って

- 交通の乗降問題
- 運転手不足・路線維持／小型バス（免許）
 - 自動運転・労働生産性（所得）
- (国際)観光地域に適した公共交通計画（都市計画）
 - 移動手段・税・収入
 - 観光需要への対応⇒観光（移動）創造（公共交通・徒歩観光）/歩くまち・歩きたいまち
 - クルーズ（観光バス）首里城⇒クルーズ（観光バス）（モノレール・路線バス）（徒歩）首里城：交通渋滞・公共交通利用
- 車の利用への課金：税優遇等
- 交通結節点の創造：既存施設の活用（RYCOM・病院？）
- 時間信頼性：定時性＞速達性？（特に空港アクセス）
- 交通手段選択と料金抵抗：要確認
- 小規模自治体⇒Communication
- 役割分担・責任：Communication
- クロスセクター：統合化：テストベッドアイランド
- 沖縄の強み：観光客・関心の高さ

おわりに？ はじめに？

●Integration / Communication



- 公共交通等に係る情報PF（まずアンケート結果でも）
⇒両先生からのご指導
- ブレスト⇒構造化？
or になりたい姿から（21Cビジョン）
- 大学として何を？ 議論の場